

●人口減少対策について  
●組織改編と人材育成について

竹山 俊郎（平戸市民クラブ）



●全国的に人口減少傾向にある中、多くの自治体が競って全国に向けて移住・定住希望者に我がまちのアピールや、移住者が求めるものを検討しながら、移住・定住促進が図られている。平戸市においても、担当職員を配置し努力しているが、移住・定住に関わる総予算はどの程度要しているのか。

●**総務部長** まず、移住定住環境整備事業として、4644万円を計上している。また、定住促進対策事業として217万3千円を計上している。

●**令和4年度当初予算案の概要に示されている人口減少対策として作られた事業計画や、観光、商工、農林水産業振興のための重点プロジェクトについても、市長の所見を尋ねる。**

●**市長** 若年層を地場企業への就職につなげる取組みや企業誘致の推進による就労機会の拡大、農林水産業における新規就業者の育成、確保対策、妊婦、出産、育児期における切れ目のない支援など新規事業やこれまで

の事業の拡大を図りながら取り組むこととした。

●**組織改編については、全庁的に行うもの、部分的に行う小規模なものがある。いずれにしても市長をはじめ、管理職や課内の職員と十分に周知がなされた上で実施されているのか。また人材育成についての全庁的な取組みや、各部署においてもどのような取組みがなされているのか。**

●**市長** 組織改編については、今後のまちづくりの支援体制整備、自治体DX推進に対応する専属部署の創設、総務部内並びに農林水産部及び農業委員会の再編が主なものであり、これまでに関係各課と十分な意見交換を行うとともに、行革推進本部会議等で職員へ周知している。また、人材育成においては、人口減少時代における自治体を経営する上において重要なものと認識しており各種職員研修の実施や人事評価制度を活用するとともに、各職場におけるOJTを通して職員一人一人の資質向上に努めている。

●**新型コロナウイルス感染症について**  
●**小学校・中学校におけるコロナ対策について**  
●**運転免許証返納者への対策について**

松口 茂生（平戸市民クラブ）



●**ワクチン接種の中でも、今回は小児ワクチンが国より特例承認された。今後のスケジュールは。**

●**市民生活部長** 小児用ワクチンは、初回接種となり、原則20日以上の間隔を空けて2回接種することとされている。小児が対応できる医療機関において、接種体制の調整、構築を進めており、3月中旬以降に実施する。

●**小児接種は保護者の方々の心配もある。ワクチンの効果、副反応については十分な説明、不安の払拭、周知をどのように行うのか。**

●**市民生活部長** 接種券発送時に国のパンフレットを同封し、ワクチンの効果と副反応を十分に理解した上で、かかりつけ医と相談し、接種を判断するよう周知している。

●**各学校に非接触型検温器は設置しているか。またその効果は。**  
●**教育次長** すべての学校に設置を予定している。メリットは新型コロナウイルス対策だけでなく、風邪やインフルエンザなどの対策にも使用できる。教職員の負担軽減や働き方改革にもつながっている。

●**コロナ禍の中、児童生徒へのス**

トレスケア対策は。

●**教育次長** きめ細やかな観察やアンケートを行い、児童生徒の状況を把握するよう努め、必要に応じてスクールカウンセラーが面談を実施し、助言を生かせる体制を整えている。

●**オンライン授業の状況は。**  
●**教育次長** 新型コロナウイルス感染症による出席停止者が出た学校でオンライン授業を実施した。保護者の了承を得た上でタブレット端末を利用した双方向によるオンライン授業を実施している。

●**踏み間違え事故防止のための運転免許証自主返納啓発については。**

●**総務部長** 長崎県・平戸警察署と共催し毎年市内2地区を対象に実施している高齢者交通安全講習会でも自主返納制度を説明し啓発を行っている。

●**免許証を自主返納された方へ、シニアカーを購入する際の補助は出るのか。**  
●**総務部長** 現時点では考えていない。公平性についての検討が必要と考える。福祉部の高齢者いきいきおでかけ支援事業で移動手段の確保を行っている状況である。

●**農業者の堆肥の需要について**  
●**駐車場から観光スポットまでの心配りについて**  
●**公共施設内草木の処分について**

大村 謙吾（新波クラブ）



●**新規就農者確保で熱心な取り組みが行われアスパラガスやイチゴハウスも増えてきているが堆肥不足が課題になっている。良質な堆肥の需給バランスを解消していく必要がある。堆肥の確保について問う。**

●**農林水産部長** 大規模堆肥センターの設置について検討を行ってきたが、設置場の確保や広範囲からの堆肥の運搬や運営にかかるコストの問題などがあるため、設置は難しいとの判断に至っている。しかし、堆肥確保の必要性はあることから、平戸式もかかる農業実現支援事業により、耕種農家を対象とした堆肥置場の整備に対する支援制度を設けている。

●**市が仲介を行い現場の声を入れた需給者のマッチングが必要ではないか。**

●**農林水産部長** 農業振興を図っていく上で堆肥の問題は解決すべき課題と捉えている。提案頂いたマッチングの必要性を感じている。マッチングに向けた検討会の開催を農協や県など関係組織も含めたうえで協議をしていきたい。

●**観光スポットにて駐車スペース**

から目的地まで長い距離を歩く場合の配慮が必要ではないか。

●**文化観光商工部長** 様々な観光地があり駐車場から観光地へのアプローチの問題や段差などの課題を認識している。その中でもハード整備は、自然公園法などの法的な問題もあり、すぐに解決が難しいものもある。情報発信やおもてなし、ソフト事業など、取組み可能なものは順次検討する。総合計画に掲げるおもてなしの観光地づくりへ近づけるよう取り組みたい。

●**農林課が所管する南部地区の多目的研修センターの除草やその処分など管理状況を問う。**

●**農林水産部長** 日頃より地域のボランティア団体の皆様にご協力を頂き感謝している。令和3年度は消耗品の現物支給のほか刈り取った草のごみ処理手数料負担を行っている。引き続き必要な資材の支給を行うなどボランティア団体の方からの要望に対応し、それ以外の支援や要望があれば予算を検討しながら対応させていきたい。

●**教育行政について**  
●**水産行政について**

綾香 良浩（新波クラブ）



●**教員の長時間勤務と多忙さは、心身の疲労につながり、その影響は最終的に子ども達に及ぶ。働き方改革は急務であり、どのような取組みを行っているのか。**

●**教育次長** 部活動の休養日の確保等、基本方針を定めた部活動ガイドラインを策定しているが、まだまだ十分とは言えないと思っている。学校においては、規模や地域の実態に応じて様々な働き方改革を工夫しており、会議のスリム化、校務のICT化等、様々な働き方改革を進めている。

●**特別教育支援員等、市の独自財源での増員で、教職員の負担軽減を図ることはできないのか。**

●**市長** 今回のご質問で教職員の労務環境というものが明確になった。議会で取り上げていただくことは、とても意義がある。市長部局としても、教育委員会としっかりと議論を重ねて対応をしたい。

●**教育次長** 学校の働き方改革は、これまで学校が行ってきたことを、統合、縮小、削減しなければならぬこともある。保護者、地域の皆様にご協力とご理解を得ながら、教育委員会

としても学校と一緒に働き方改革をしていきたい。

●**磯焼けが徐々に進み、今では本市全体に広がっている。先進地では様々な対策が行われているが、本市においても、磯焼け対策を研究、実践するための何らかの対応が必要では。**

●**農林水産部長** 先進事例を検証しながら、本市の磯焼け対策に生かしていく方向で検討を重ねたい。

●**市の事業で放流するアワビの稚貝のサイズを様々な観点から、稚貝の放流金額が変わらないのであれば、サイズの選定の裁量を各漁協に任せたい。**

●**農林水産部長** サイズ決定に市内漁協が関わるような補助制度の切替えも検討しながら、同じ予算規模の中での制度設計を図ってきたい。

●**水産行政は生き物で、令和4年度からは、チャレンジできる平戸市の水産課であってほしい。**

●**市長** チャレンジできるといって、その言葉一つが夢の持てる産業の形成であり、他の自治体や漁協と連携をし、よりよい漁場環境、そして平戸市の水産業のために努力したい。